

茨城の教育

中央委員会発言部分のまとめ

12月1日（土）に開催された中央委員会については、前号で後半の「討論の発言」が一部しか掲載できなかったため、今号では全文掲載します。

各学校での取り組みを注意して読み取ってください。職場の現状を変えていくためには、職場の現状をみんなで共有しながら、何らかの取り組みを始めることが重要になっています。

全教が提起した「定時退勤」は、長時間労働を改善するためにも非常に有効な取り組みになります。何故、定時に帰れないかをみんなで話し合っていく必要があります。

～討論での発言～

「#1127定時アクション」の取り組みについては、やってみようとしたところ、どうしてもそういうときに限って、しないといけない業務が舞い込んでしまい、退勤時間が遅くなってしまったという報告がありました。

それでも、一ヶ月の超過時間は45時間を越えなかったそうです。定時の中でどのように業務をこなすかということ意識する習慣も大事だということが共有できました。

生徒に約束して、「#1127定時アクション」を実行したという報告もありました。その先生は、生徒や同僚の先生にも協力してもらい、無事に定時退勤ができ、帰るときに拍手をもらったそうです。

超過勤務については、もはや生徒も周知している状況であることから、子どもたちも含め、学校全体で考えていく課題とも言えます。

特別支援学校に勤めている若手の男性の先生からは、以前の「きんむくん」に比べて、現在の勤怠管理システムでは虚偽申告がしやすくなっていることや、育休を率先して取得したことで、他の職員も取得しやすくなっている状況が報告されました。

茨城県高等学校教職員組合
水戸市平須町1番93

Tel 029-305-3075
e-mail iba-kou@insfu.net
HP https://ihfsu.net/

また、別の特別支援学校では、定時退勤はしているが、家で授業準備をしている状況も報告されました。

私たち教職員は、本来はもっと子どもや授業のことなどについて話す時間を持つべきで、そのためには、もっと教育実践の交流など、学びあう機会もつくっていくべきなのではないかという意見も出されました。高教組としても改善したい課題です。

学検のシミュレーションに関わって、考査期間中に実施され、午後半日かかってしまったことから、採点業務が滞ってしまったことや、改めて学検の選択問題についてはマークシートを導入してほしいという要望がありました。

9月から各学校で始まった遠隔授業では、「顔出し」が原則となっているが、画面に顔が映ることで気分が悪くなってしまっ



た生徒の話や遠隔授業の準備が大変で、プリントや、教室にいる生徒がカメラの角度などを気にしている状況なども報告されました。

特別支援学校では、遠隔授業のために1人教員が担当することによって、指導が手薄になってしまう実態なども報告されました。

人事の取り組みで、昨年度分会要求を提出して交渉に臨んだ結果、非常勤講師が配置になり、負担が軽減された報告もありました。

また、管理職によるパワハラともとれる言動の実態なども報告され、管理職対象のハラスメント研修導入の要求も必要であるという提起がされました。

新任者へのインタビューの取り組みでは、時間が取れない中、多くのインタビューを集め、様々な課題が確認できたことなども報告されました。

続いて第4号議案（選挙管理委員の選出に関する件）、第5号議案（執行委員。特別執行委員の定数に関する件）についての提案があり、すべての議案に対して賛成多数で可決されました。

討論された内容を基に、今後実態調査などを進めながら、県教委へ要求書を提出し、取り組みを進めていきます。

関東ブロック交流会報告

12月14日（土）～15日（日）に全教の関東ブロックの学習交流会が開催され、茨城高教組からも執行委員が参加しました。

以下はその報告です。他県の現状や問題点は今後の茨城県の高校や特別支援学校の課題を考える上で非常に参考になります。

（高校組織の交流会）

交流会は横浜市で開催。最初に全教副委員長の浪岡知朗さんから情勢報告があり、①GIGAスクール構想 ②中教審審議のまとめ ③高校教育ワーキンググループ ④給特法についての報告があった。

その後、各県交流と討論で、討論の柱は①秋の地方確定交渉の到達点と課題など生活と権利 ②教育条件整備 ③憲法と教育 ④組織強化拡大だった。

茨城県の報告への反応は、①家族看護休暇 対象に「孫」が追加されたことは、高く評価された。

②地域手当で、水戸市とつくば市のみ、8%に引き上げられたことに、心配の声があった。

千葉県では、以前このような格差があったが、人事異動で偏りがあるなど問題があつて、全

県一律になったということだった。

その他、他県の報告で特に印象に残ったことは以下の通り。

① 千葉県

教育委員会から、再任用教諭や臨時的に任用される教員の処遇改善に係る意見書が、人事委員会に提出され、人事委員会は、再任用教諭の給料月額について、令和7年度から見直すことが適当であると言及した。

② 新潟県

現在80校くらいある県立高校を、20校程度減らし、60校程度にする計画を検討している。

③ 群馬県

非常勤講師に試験作成、採点、成績処理、その他の業務にたいして報酬を支給することになった。

④ 山梨県

退職勧奨をなくして、退職者を出さないようにしようとしている。

（青年部交流会）

12月14日（土）～15日（日）に、千葉県柏市「わくわく元気プラザ」で開催された青年部交流会に参加しました。

1日目のレポート発表では、学級経営について話を聞きました。講師は、学年主任も経験している中学校の先生でした。

私の行っていることともかぶ

るのですが、特に担任を持っている先生は、次のようなことを試みているようです。

① こういうクラスにしたいという方針は強く、熱く持つ。

② 教師と生徒、一丸となって団結する。

③ 全体で指導することと、個別で指導することを使い分ける。

④ 支援を要するような生徒や長欠の生徒に、粘り強く、こまめに、温かく関わる。

⑤ 一人ひとりとできるだけ多く話せるようにする。

⑥ 生徒がやることは、生徒にやらせる。そうなるように見守る。

⑦ 保護者の声に耳を傾け、家庭と一緒に子どもを育てていく。

⑧ クラス通信を発行する。

長年、教職を経験している方々としては、当たり前なことなのでしょうが、以上の8点は、長くやっても、忘れてしまうこともあることとも思いました。

また、私自身、16年以上かかってやっとできるようになったことばかりです。すぐにできそうなことではあるものの、これが担任教師として大事なことということも学べました。

そして、何より大事なこと。先生方、だんだんと長年この仕事をしていると「限界」というカベが見えてきていませんか？ そのために「学び続ける」という精神が大切なんですね。本県

の組合でも、2月9日（日）に「教育のつどい」が開催されます。組合というつながりでもって、学びによって、みなさんの教員としての力をこれからも広げていきましょう。

2日目はフィールドワークに参加しました。フィールドワークは、柏市の中にある戦時中の跡を見学するものでした。レポーターは、小学3年生の担任の先生です。

小学3年生に、平和学習をどのように指導するのか、私としてはなかなか難しいのではないかなと思っていたのですが、あとで見学した「秋水」という戦闘機の燃料庫が、身近な住宅地の中に隠れていることを、子どもが見てどう思うのか、その様子をまとめてくれたものでした。

この先生のレポートですばらしいなと思ったのは、戦争云々だけでなく「このクラスの平和ってどのように守っていけばいいのかな」ということを子どもたちに考えさせようとするところです。



平和学習というと、どうしても、ウクライナのことや、イスラエルのことが思い浮かべることが多くなります。それは間違っていないかもしれませんが、日頃のクラスの平和活動が重要なのだということがよく分かるレポートでした。

このところ、本県高教組としては、平和学習についての取り組みはあまり目立ったものはありませんが、私も含めて、身近な「自分の担任しているクラス」や「自分の指導しているクラス」から、子どもたちがどのようにしていけば平和な教育を受けていけるか考えていくことで、少しずつ平和活動を組み立てていきたいものです。

働き方改革(1)
～終わらない仕事～

長時間労働をしている教職員の口から「仕事が終わらないんです。遅くなってもやるしかないんです」という言葉をよく聞きます。しかし、多くの場合、彼や彼女がやっている仕事は何をやっているか誰も知らないということが多くあります。そして、彼らはいつも長時間労働をやっている。

ここで、考えるべきは「終わらない仕事」は誰の責任かということだ。本来は、管理職の問題だ。仕事が終わらないのは、

校務分掌の仕事が急に増えた場合や個人がやるべき期限が限られた仕事が増える場合などが多い。確かに校務分掌の仕事は、季節や時期で集中する。

こうした場合、管理職は仕事が増えた校務分掌の人員を増やしたり、複数の仕事の片方をやらなくてもよいと言ったり、代わりの人を配置すれば、終わらない仕事は軽減され、改善する。

少なくとも管理職は、長時間労働をしている教職員と話し合いを継続して、何故終わらないのかその原因を聞いて改善の方法を提示すべきだ。そうしないと、終わらない仕事はいつになっても終わらない。

教育のつどい2025

日時 2月9日（日）13:30～
場所 ワークヒル土浦

【テーマ】 「わたしたちが考える働き方改革と、学校の実状」
【レポート】

- ① 「新設校のとりのくみ」
IT未来高校：横瀬 健司 先生
- ② 「働き方改革の授業実践」
荃崎高校：國井 啓介 先生
- ③ 「子ども第一の集団づくりのためにできること」
水戸特別支援学校
小林 秀行 先生